

研修で
学校が
変わる

教務主任研修まとめ

令和2年7月3日(金)

Web会議による遠隔講義



「カリキュラム・マネジメント with コロナ」

講師 村川 雅弘 氏 (甲南女子大学 教授)

【研修のねらい】

■鳥取市のめざす子ども像の実現に向けたカリキュラム・マネジメントについて理解を深め、教務主任としての学校運営に活かす。

指導要領改訂の背景→先行き不透明な時代：災害・少子高齢化・一極集中・仕事の変化・・・そして感染症

育成すべき資質・能力を踏まえたカリキュラム・デザイン→どのように学ぶか (A Lの視点)

→カリキュラム・マネジメントの充実

カリキュラム・マネジメントの大前提 →自校の児童生徒の実態把握・具体的な手立て

→日々の授業が変わること・子どもに力をつけること

with コロナの時代
協働的に新たなものを創出
するために求められる資質・
能力の育成が重要性である

カリキュラム・マネジメント

学習指導要領・学校教育目標の実現のための教育課程編成
→実施・評価改善のPDCAサイクル

カリキュラム・マネジメントの3側面

- i) 教科等横断的な視点による教育内容の組織的配列
- ii) 実態把握に基づく教育課程の編成とPDCAサイクルの確立

Dの中の小さなpdcaサイクル (日々の授業改善)

- iii) 校内外の人的、物的資源の組み合わせによる効果的な活用

withコロナにおける外部のキャリアモデルの活用 (遠隔を含む)

カリキュラム・マネジメントのレベル

- ①学校のカリマネ ②教科・領域のカリマネ
- ③学年のカリマネ ④学級のカリマネ ⑤自己の学びのカリマネ

カリキュラム・マネジメントの最終目標

「一人ひとりの自己の学びのカリキュラム・マネジメント」の実現

一人学びができる子どもの育成

【受講者のプラン・・・私はこの学びをこう活かす】～部分抜粋～

- ・日々の授業改善(pdcaサイクル)が一年を通じてカリキュラム・マネジメントにつながることを校内で再度確認したい。
- ・カリマネは日々の授業の上に成り立っているのだからこそ、学びの姿を引き出す手立ての共有や共通実践が大切だ。プロジェクトチームで現状を把握し成果や課題を洗い出していきたい。また、この時期を順風ととらえ、行事や活動について児童自身が考えることで自己の学びへ繋げていきたいと思う。
- ・それぞれの教員が授業と家庭学習をリンクさせたり、授業が終わってもまだ学習したいと思えるような授業をつくったり、ひとりでも学習できるスキルを教えたりしていきたいと思う。
- ・外部講師の方に自分の生き方を語っていただいたりして、キャリアモデルとしても関わってもらえることができないという示唆をいただいた。先行き不透明な時代を生き抜くための資質、能力を育むことを常に念頭において実践していきたい。
- ・限られた時間や人材を有効に活用して、生徒を成長させるために、学校運営協議会やPTAと連携したカリキュラム・マネジメントを取り入れたい。

このワードが受講者の振り返りの中で最多でした
24名/56名

- ・「一人学びができる子どもを育てる」ために、学びの手引きを作成するなどの具体的な方法を示して下さったことが心に残った。
- ・自己の学びのカリキュラム・マネジメントを実現するために、本校の研究テーマである学級活動・話し合い活動で子どもたちと共に考える時間を充実させていきたい。
- ・一人学びの力の育成は授業だけでなく家庭学習での予習や主体的に学ぶ姿勢にもつながってくると思う。授業研究や授業改善の一つの視点として取り組んでいきたい。
- ・一人学びの育成について、本校でも家庭学習の取り組みが課題となっている。ただの宿題にならないように、授業との関連を図るなど、校内研究、教科会、学年会でも取りあげ、これからの取り組みを工夫していきたい。
- ・本校は教科学習で必要な力を、特設教科の学習で身につけさせるにはどうすればよいか、研究をしている。先生のお話から、この研究が一人学びができる生徒の育成につながる可能性が十分にあると感じた。校内研究や研究授業を通して、一人学びができる生徒を育成したいと思う。
- ・自己の学びについてのマネージメント力をつけるために、その環境となる学級の人間関係をつくっていく手だてやポイントを、子どもたちと共につくりたいと思う。